

## 取組と目標に対する自己評価シート(フェイスシート)

タイトル：健康づくりと社会参加の促進（令和7年度）

### 現状と課題

令和8年2月1日現在、本市の高齢化率は40.17%となり、要介護認定率も18.4%となっている。介護保険申請者の原因疾患として、脳血管疾患や骨折が多く、前期高齢者のうちから生活の中に運動習慣を取り入れ、老化による筋力低下を予防するため、体力や筋力の維持増進を目的とした運動教室を実施している。

教室終了後は、引き続き集まりの場「サロン」を作り、高齢者が地域とつながり、心身ともに健康でいきいきと生活するための交流の場となるような支援をしている。参加者が主体となり、介護予防や認知症予防、孤立防止につながる様々な活動が行われているが、女性と比べて男性の参加者が少ないのが課題である。

また、高齢者の生きがいづくりや地域活力の向上を目的に、高齢者クラブやシルバー人材センターへの運営支援をしている。高齢者クラブにおいては、会員の高齢化によりクラブを退会する方も多く、クラブ数及び会員数共に減少傾向にある。一方、シルバー人材センターの会員数は、ほぼ横ばいで推移している。

### 第9期における具体的な取り組み

- (1) 健康づくり事業の推進      (2) 高齢者福祉の充実      (3) 高齢者の社会参加の促進  
(4) 地域生活環境の整備      (5) 高齢者の虐待防止と権利擁護の推進

### 目標（事業内容、指導等）

#### ①高齢者の保険事業と介護予防の一体的実施

- ・加齢に伴う低栄養、筋力や口腔機能をはじめとする心身機能の低下、抵抗力低下に伴う感染症を予防するため、介護予防教室に医療専門職を派遣し、専門的な知識による指導等を行い、高齢者の生活習慣病等の重症化予防や心身機能の維持増進を図る。

#### ②生きがい活動支援事業

- ・高齢者クラブや同連合会に対して補助金を交付し、高齢者クラブの育成・活動を支援
- ・健康で働く意欲のある高齢者が社会に参加することを目的にシルバー人材センターを設置し、就労を通じた高齢者の生きがいと地域社会の活性化に向けて活動を支援

#### ③高齢者福祉事業

- ・自宅で暮らしている支援が必要な高齢者やその家族からの相談に応じ、各種保健、福祉サービスが総合的に受けられるように地域包括支援センター及び在宅介護支援センターと連携し、高齢者の相談等の支援を図る。

#### ④高齢者虐待防止・権利擁護事業

- ・認知症などで判断能力の低下した高齢者などが不利益を被らないよう、市社会福祉協議会で実施している日常生活自立支援事業の普及、周知を図るとともに、成年後見制度や高齢者虐待防止についてもさらに周知する。

### 目標の評価方法

#### ●時点

- 中間見直しあり  
 実績評価のみ

#### ●評価の方法

各事業における実績数と目標値の比較による評価

## 後期(実績評価)

### 事業内容

- ・運動、栄養、口腔ケアについての重要性について普及啓発を行っていくとともに、専門職による介護予防教室を実施
- ・高齢者クラブ、シルバー人材センターに補助金を交付し、高齢者の生きがいと地域社会の活性化に向けての活動を支援
- ・在宅の高齢者や家族からの相談体制の整備
- ・高齢者等が不利益を被らないよう、日常生活自立支援事業や成年後見制度、高齢者虐待防止について広く周知する。

### 自己評価 [○]

半数以上の事業において目標値を上回ったため「○」と評価した。

指 標	R7 目標値	R7 実績値	実施状況
介護予防教室参加者数 (運動・栄養・口腔の重要性を理解してもらいフレイル予防を図る)	100人	102人	7箇所専門職による運動等の指導を行った。延べ770名が参加できた。
高齢者クラブ会員数 (地域交流の基本となる高齢者クラブの育成を支援する)	2,000人	1,912人	高齢者クラブ数、会員数共に年々減少している。クラブの魅力等を発信するなど減少に歯止めをかけるための工夫が必要である。
シルバー人材センター受注件数 (元気な高齢者の社会参加の一環として受注件数の増加を図る)	1,800件	1,767件	一層の受注増に繋げられるように周知を図った。 (令和8年2月分まで)
地域包括支援センター及び在宅介護支援センターでの総合相談件数 (各種保険、福祉サービスが総合的に受けられるよう体制づくり)	1,500件	1,742件	目標は達成したが、今後も包括支援センター及び在宅介護支援センターと連携して、適切に対応できるような体制をとっていききたい。 (令和7年12月分まで)
日常生活自立支援事業の利用者数 (高齢者等が不利益を被らないよう権利擁護事業を推進)	10人	15人	社会福祉協議会で実施。相談等も含め延べ人数504人が利用した。 (令和8年2月分まで)

### 課題と対応策

今後高齢化がより一層進むことが予想される中、フレイル予防として、「十分な栄養摂取と口腔ケア」「筋肉維持と活動量の確保」「社会とのつながりを保つ」などを柱として、高齢者が生き生きと暮らせるまちづくりを目指して、地域包括支援センター及び在宅介護支援センターと協力しながら、教室の開催やサロンの活動などに対して支援をしていきたい。